

2019年度 第2回 児童・中高等部教員会議 議題書

日時 6月8日 12時46分～

場所 B307 さくらんぼ

出席 児童・中高等教員：栗原、門脇、ジュトラス、小林、福村、木下、江本、松田、山本、小山、村田

欠席：犬飼、高島

役員：井澤（敬称略）

議題書

1) 各クラスの状況報告

- ① どんな授業内容であったか
- ② 漢字学習について
- ③ クラスの様子はどうかであったか
- ④ 教員間で相談したいこと
- ⑤ センター全体で気づいたことなど

2) 1. を踏まえた上で、必要があれば授業の進捗状況に合わせた学年別カリキュラムの見直し・訂正

3) 花火クラスの規定についての意見交換

4) イエローカード制度の活用について（その後）

5) 今年度から使用している漢字ワークの使用状況及び漢字学習の進行状況の確認

6) 2学期のラジオ体操について

7) 中高等部の今後について

8) 教員養成募集の進捗およびその後の進め方（役員より）

9) アシスタントの条件や代講教員について確認（役員より）

10) 生徒名簿アップデートについて（その後）（役員より）

議事録

1) 1.と2.の議題について、各先生から、各クラスの状況報告及び授業の進捗状況に合わせた学年別カリキュラムの見直し・訂正についての話し合いがあった。

児童1B-カタカナを全部見るのが今日で終わった。漢字は30個目標だったが25後個ぐらいで来週30個いけるかもしれない。授業に特に問題なし。学力の違いはあるが出来ることを出来る形でやる。特別に気になる児童もいない。

児童1A-カタカナについては今日で終わる。漢字は漢数字と週に特化して1学期は進めている。教科書は上の半ばまで進んだ。クラスについては支援が必要な子がいるので、保護者と相談しながら進めやすい方向で進めている。特に問題なく進んでいると思う。

児童2A-授業内容は漢字を多めに宿題として渡しているが、ご家庭に任せて出している。1学期で1年生の漢字全てに触れている。2学期からは、2年生の漢字を含めつつ進めて行く。2人ほど支援の必要な子がいる。今学期持って辞めることになった子が1人いる。発表会を心配をしている子がいるので、無理やりではなく、出られなければその方向で考えている。アシスタントが4月の時点で見つからず、クラスの保護者の方にロテーションで入ってもらっており、そのおかげで授業参観は行わなくても良いと保護者から意見があり、更に普通の授業が見られて為になるという声がある。役員から、ボランティアが更に必要が聞いたところ、あると助かりますと発言がありました。もう1人のボランティアアシスタントの方にはお断りする方向でお願いしたい。

児童2B-支援の必要な子はいない。後半は集中力が切れるので、授業を工夫したい。漢字は52文字を1学期で終わり、2学期に2年生の漢字を始めたい。アシスタントボランティアの方はとても助かっている。国語だけでは集中力が切れるので、算数などの他のアクティビティを国語に絡ませて進めたい。今日は暑くて子供が集中力があまりなかったのので、どうにか涼しくする方法があればうれしい。

はなび一年度始めに学力の向上は目指さないとしたので、今年度は発表会を東京オリンピックに関連付けて日本を紹介するスペシャリストを育成するという大きな柱を立てて進めている。1学期は日本の季節・食べ物・武道のテーマに沿って進めた。年齢は1-6年生までいるが、問題はない。

児童3B-前任の先生から引き継いだ内容で授業を準備していたが、生徒も変わり、思っていた感じと違ったこともあり、生徒の様子を見ながら組み直している。漢字は1ページで進めている。1学期で28文字。ひらがな・カタカナができない子もいる。カタカナが全員できるようになるようにテストも含めながら進めている。カタカナ入らないと思っている子もいる。漢字はどうしてもできない場合は、書けなくても読めなくてはいけなくて教えている。優先順位としてひらがな・カタカナをまず読み書き、漢字はまず読みという方向で良いのか他の先生と確認したい。集中力のない子供たちもいるので、引っ張られてしまうと授業がうまく進まない日もある。ゲームなどを取り入れるとうまく行く。支援が必要な子は特にいないが、座ってられない子などはいらる。犬養先生とは教材を共有しながら進めている。

児童3A-カタカナのオンなどを中心に進めている。ディクテーションの練習もしている。漢字のテストはしているが漢字の定着は見られない。クラスはだらける子もいる。ディクテーションをされている先生はどのようにされているのか聞きたい。

他の教員から、宿題のディクテーションを行なっている。授業までに授業内容を保護者と共有し、保護者にも宿題がわかるようにしている。漢数字で数字を書かなくても良いなど、ゆるくして進める。ひらがなで全て書かないといけませんが、わからない字があるときは飛ばしてもいいから続けてもらう。子供が取り組みやすいように進めている。

児童5-プロジェクターが使えるようになったおかげで、動画から入って視覚で確認できるようになったり、授業の幅が広がり、助かっている。授業内容は、書き読み聞くなど。アクティビティを入れて飽きないようにしている。問題はない。

他の教員から、プロジェクターを活用していて、集中力が切れることが少ない。日本語力の弱い子もわかりやすい。

児童6-授業内容は例年通り。国語4年生、算数4年生を使っている。学習レベルの差もさほどなく問題ない。漢字はドリルを2ページづつ宿題で出している。プロジェクターはまだ使っていない。これから使いたい。

中高等1-男女数が極端に差があり難しいクラス。難しい子は子供とも話しつつ、保護者とも話している。日本語の差が大きい。やる気のない子もいるので授業を進めるのも難しい。教員として、どこまで子供に話したら良いのかは判断が難しい。センターは教員の上の立場の人・教員がいないので、子供のやる気が見られない時の対応が難しい。

他の教員から、日本語のレベルの差はかなりあると発言があった。

中高等2-人数は少ない。前半はプロジェクターと使い、話して聞かせて、後半はそれを使った内容の授業を行う。アクティビティで授業を進めている。宿題はなかったが、保護者からの要望により漢字ノートを宿題にする。

中高等3-年齢差と日本語の差も激しい。読み書きもあまり行わない。話しを重視。宿題あり。

2) 花火クラスの規定についての意見交換

- ・ カリキュラムは1年とし、日本文化に親しむことを授業の目的とする。
- ・ 授業の流れで出てくる漢字やカタカナを学ぶ。
- ・ 各家庭での保護者の日本語学習サポート、生活の中に日本語をできるだけ多く取り入れることなど、保護者の意識や姿勢が子どもの日本語スキルに大きく左右する。

- ・ はなびクラスへの移動は、従来児童 1 クラスを終了してからということになっていたが、幼児 3 クラスを終了した時点で移動することにした方がいいのではないかと。
 - ・ 児童 1 クラスを終了した時点で、児童 2 クラスへの進級が難しいと判断される場合、教員がはなびクラスへ移動を勧めるのか、それとも児童 1 クラスを留年させるのか。
 - ・ 一度はなびクラスへ移った生徒は、正規クラスに戻るのには難しいのではないかと？
 - ・ 今後はなびクラスの学習プロジェクトを作っていく。はなびのカリキュラムを作ることは重要なプロジェクトである（プロジェクト制作）
 - ・ 文化を中心に進める
 - ・ 幼児 3 を修了した子供対象に変更-変更するで全員合意
 - ・ 学年別テストをしてはなびを選択肢に入れるのもあり
- 3) イエローカード制度の活用については、昨年度より制度が設けられたが、実際にイエローカードを利用した教員はいない。また、使用するかどうかの判断が教員間で異なり、難しいところである。今後は、使用することが無かったとしても、この制度は廃止することなく保留するで良いという方向で全員合意した。
- 4) 今年度から使用している漢字ワークについては、漢字ワークを光村図書にして欲しいという意見があった。これについては、違う教員から、光村図書の漢字ワークの購入を最初に試みたが、学校として認定されなかった為、購入できなかったと発言があった。
 今年は 1 年生から漢字の進め方が違うので、来年は次の学年の漢字の進め方が変わってくる。しかし、漢字の定着は難しいという発言があった。
- 5) 2学期のラジオ体操については、昨年までは、2学期になると運動会が開かれるまでの間、ラジカセを使って廊下でラジオ体操を行ったが、今年度より各教室でプロジェクターが使えるので、クラス毎にラジオ体操を行うことにするという方向で全員合意した。
- 6) 中高等部の今後については下記の様に協議された。
 中高等部は現在 3 クラスあるが、年齢幅 5 年と大きい（日本で言う中学生と高校生を合わせた年齢）。これはケベックの Secondary school の年齢システムを適応した形である。中高等 1 年生—Secondary 1、中高等 2 年生—Secondary 2, 3、中高等 3 年生—Secondary 4, 5
 また、進級者数が以前と比べて増加している。各自の日本語レベルがバラバラであり、現地校の勉強との両立が困難という声もあり、授業計画することが難しい現状がある。そこで、1 学年（現在 1 クラス）を年齢層 1 つのみの日本の中学校の年齢制度に合わせたものにし、中学校 3 年が終わった時点で、中高等部在籍終了とすることを検討してはどうか。もし日本語学習を継続したい場合、成人クラスへ行くという選択肢もあるという意見が提示された。
 しかし、成人クラスと中高等のカリキュラムでは、目的が同じではないのではないかと、という意見も出された。
 その場合のカリキュラム作成は必要なプロジェクトになってくるのではないかとという意見があった。
 役員から、今の中高等のカリキュラムは決まっているのかという質問があり、それについては中高等 1 と 3 は決まっているが、中高等 2 は提示されていないと発言があった為、まずは現在のカリキュラムを提示できる形にする事から始めたら良いのではないかと意見があった。
 これについては、中高等の先生から全員合意で、まずは現在のカリキュラムを書き出す事から始めると決定した。
- 7) 教員養成募集の進捗およびその後の進め方については、現時点で、外部からの応募者 6 名のうち、4 名は面接が決まっている。残り 2 名は返事待ちであると報告があった。
 教員から、この人達の面接に教員は入っているのか、という質問があり、役員から、教員を入れるという事は決まっていないが、今日行った面接には教員に入ってもらったと説明があった。
 また、教員から、ワーキングホリデーできている人達を入れると、その後の引き継ぎがうまくいかないという意見が出された。これについて役員から、それはどうしてですかという質問に対し、ワーキングホリデーできている人達は

帰国が迫っている事もあり、帰国の最後まで授業をしている為、辞めた後に何をしたのかを聞くという事ができない、と発言があった。

役員から、授業内容を確実に書き出し、保存し、共有するというシステムがないのかという質問があり、各教員から、下記のような発言があった。

- ・ 授業の資材などを含め全てを記録し保存しているという教員もいる
- ・ グーグルシェアフォルダーを使って、共有しているという教員もいる

8) アシスタントの条件や代講教員については、役員から、下記のように確認があった。

- ・ 代講教員は15ドル×2時間=30ドルを教員から代講教員に直接支払ってもらうという形で運営している

・ 代行アシスタントは一日17ドルをアシスタントから直接支払ってもらう形で運営している
教員から、ボランティアアシスタントと正規アシスタントの違い曖昧で、正規・ボランティア共に仕事量と同じである場合、どのように待遇を考えて行ったらよいのかという質問があった。これについては、役員から後ほど確認するが、正規アシスタントは先生が代講が必要な際、代講をお願いでき、またアシスタント本人が休まなくてはいけない場合、自分の代行を探さなければいけない義務があるが、ボランティアアシスタントにはこの様な義務はないと説明があった。

- ・ この点については、会議後役員間で確認し、上記の形で運営していることが確認されている。

教員から、はなびクラスでは、固定アシスタントでも人数の関係からボランティアで入ってもらっているが、ボランティアの場合は、教員・アシスタントのメーリングリストに入らないため、入れてもらえないかという質問が出た。これについては、連絡事項がある場合は教員からボランティアアシスタントの方へ情報を転送してもらう、という形で合意した。

9) 生徒名簿アップデートについては、役員より、グーグルで今後は共有していきたいので、変更がある場合は少なくとも2週間は待ってもらい、各自でグーグルシートを確認してもらいたいと連絡があった。

10) 教材図書の購入については役員より、今年の予算編成が現在のところ赤字になっており、いろいろところで経費削減を試みているので、教材図書用に別途でとってある予算を今年は無しにし、教材図書の購入を無しにしても良いかと提案があった。

教員から、その場合は各教員（クラス）毎に出ている教材費を使って、教材図書を購入しても良いのかという質問があった。

役員から、おそらく大丈夫であるが後ほど確認すると発言があった。

- ・ この点については、会議後、役員間で確認し、教材図書を各クラス毎の教材費から購入しても良い旨が確認されている。

また、役員から、更に教材室の資材を毎年在庫必要数購入しているが、国語ノートやノート以外の資材（折り紙、クラフト紙等）の購入を今年は控えたいが大丈夫かという質問があった。これについては、特に折り紙などを使うことが少ないので、もし幼児の先生がたが大丈夫であれば、購入しなくて大丈夫であると全員合意であった。

教員から、クラス毎に配布されている教材用予算は、どの様に計算すれば良いのかという質問があった。もし年間で生徒数が減ったらいつの生徒数をベースとして計算するのか分からないという意見があった。これについては役員が後ほど確認し、連絡すると発言があった。

11) その他

教員から、夏休み中最後の週などに一日教材室を開けて図書などの確認をしたいという要望があった。これについては役員が後ほど確認し、連絡すると発言があった。

- ・ この点については、会議後、役員間で確認し、授業日以外の日に学校を開けないという方向で運営することが確認された。また図書の確認などは授業日の午後など、学校を開ける日に対応して頂きたいという意見である。